



つなぐ、わまつ

バトンを引き継いで

校長 加藤 真寿美

暖かな日差しが、春を強く感じさせる季節となりました。今年桜の開花が早く、咲き誇っていた桜の木々は桜吹雪と共に、わずかに青葉をのぞかせています。

私は、4月1日付で、河村一郎前校長先生の後を受けて着任いたしました。加藤 真寿美（かとう ますみ）と申します。伝統ある常盤松小学校で校長としてスタートできることを誇りに感じるとともに、その重責に身の引き締まる思いです。

「すべては、子どもたちの笑顔と成長のために」を胸に、河村校長先生から渡されたバトンをしっかりと引き継ぎ全力で教育活動を進めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

今年度は、25名の新1年生を迎え、全児童数135名での出発となります。新しい学年や教室、

学習や生活、そして新しい出会いなどに期待を込めている子どもたちの夢や希望、可能性を伸ばしていきたい、そんな学校にしていきたいと思っております。そのために、本校開校以来の校訓である「健康・勤勉・上品」を学校の宝として継承すると共に、人と人・人と自然・人と社会とのかかわりを大切に、個性を生かしながら他者と共に生きる力をもつ児童の育成を目指します。

また、本校の教育目標は、次の三つです。

◎挑戦する子

○つながる子

○働く子

今年度は、「挑戦する子」を重点として教育活動を進めます。「挑戦する子」は、広い視野をもち、自ら学び、考え、挑戦する力をもって行動する児童の姿であり、自分らしい生き方ができる力を身に付けることを目指しています。本年度より本格実施となる新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の重要性が大きく取り上げ

られており、まさしく「挑戦する子」が求められているといえます。このことを踏まえ、今まで以上に授業を充実させ、一人ひとりに確かな学力を身に付けます。常盤松スタイルを継承し、子供が見通しをもち、自己の学習を振り返ることができる授業展開や子供たち同士の対話による学習活動の展開など問題解決学習で授業設計を行い、「挑戦する子」を後押しします。「できる・わかった・やってみよう」と思える子どもたちを育てていきます。

「つながる子」は、人と人とのつながりを大切にし、互いに相手の良さや違いを認め、協力し合う児童の姿であり、人とよりよく関わることでできる力を身に付けることを目指します。そのために、信頼関係を基盤とした学校風土・学級風土を構築し、自分も友だちも大事に思い、互いを尊重できる温かい関係をつくっていきます。教職員も「すべての子どもたちをわが子」と思って指導に当たります。

「働く子」は、仲間や地域の役に立つために能力を発揮する児童の姿であり、社会の一員として積極的に働き、行動できる力を身に付けることを目指します。そのために、まずは子どもたちが心身ともに健康に過ごせる環境をつくり、自分自身の心と体を鍛えます。心や体が安定することで、自分以外の人や社会にも

関心が向き、自分にできることを考え、発揮できると考えます。

この他にも、昨年度に引き続き、プログラミング教育を推進し、論理的思考力や情報活用能力を育成すること、交流活動・体験活動を推進し、様々な人との関わりや経験から学び、成長につながることも取り組んでいきます。

「子どもにとって、通ってよかった保護者にとって、通わせてよかった地域にとって、在ってよかった職員にとって、勤めてよかった」常盤松小学校にかかわるすべての人たちがそのように実感できるように学校経営を行っていく決意です。

しかしながら、本年度は、コロナウィルス感染症防止対策により、例年通りの教育活動を行うことができない厳しい状況にあります。子どもたちの安全を第一に考えながら、限られた環境や状況のなかでも工夫を行いながらできる限りの教育活動を行っていきたくと考えています。保護者や地域の皆様には、ご心配やご苦労をおかけする事が多々生じることと思いますが、引き続き常盤松小学校を支えていただきたくと思います。このような状況だからこそ、学校・保護者・地域が連携し、この困難を乗り越えたいと思えます。休校期間中の子どもたちの規則正しい生活や健康にご配慮ください。よろしくお願いたします。